

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900087
法人名	有限会社 ケアサービス九州
事業所名	グループホーム ふぁみりー那珂
所在地	福岡県 福岡市 博多区那珂3丁目14番6号
自己評価作成日	平成27年8月25

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年9月9日	評価結果確定日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域に関わりが持てるように、市の担当職員と連携を取り、博多区グループホームネットワークを立ち上げ、研修や他施設との懇親会(情報交換、ネットワーク作り)に取り組んでいる。 小規模多機能で行われている2カ月に1度の『地域けあかふえ』に入居者、職員も一緒に参加し、外部との交流で 利用者の楽しみを増やしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小学校や公民館が隣接する場所にあり、施設感の少ない建物は地域の中に溶け込んでいる。地の利を活かし、公民館での「なかよし喫茶」への参加や、法人代表自らキャラバン・メイトを務める認知症サポーター養成講座の開催等、毎月の自治会定例会に出席しながら、地域とのつながりを深めている。また、行政との連携を図り、博多区のグループホーム14事業所が参加するネットワークを立ち上げ、情報や事例を共有しながらサービスの質の向上や啓発活動に取り組もうとしている。個別の行事計画を立案し、希望や馴染みの関係性に配慮された外出支援に積極的に取り組んでいることも大きな特徴である。家族や地域、行政、他事業所との連携を深めながら、事業所や地域の課題に向き合い、基本理念や運営方針の具現化に向けた積極的な活動が行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果				
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時、理念の唱和を行い、意味を理解できているか、業務に結び付け実践が出来ているかを問い、安心、満足、信頼が守られるように、心がけている。	理念や運営方針に基づいた管理者及び職員個々の目標を集約し、各ユニットごとに年間目標を設定する等、理念の具現化に向けた取り組みがある。個別ケアを重視した目標は、ミーティングや掲示を通じて日常の関わりの中で意識できるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館で月2回行われる、『なかよし喫茶』に参加している。地域の方とも顔見知りになり、気軽に声を掛けて下さるので入居者も楽しみにされている。また、ボランティアで踊りをお願いし、夏祭りに来て頂いた。	公民館で月2回開店される「なかよし喫茶」には、毎回20～30名の参加があり、入居者の方々にも好評を得ている。また、自治会の定例会には法人代表や管理者が出席し、「けあかふえ」や認知症サポーター養成講座の開催時にも連携を図っている。地域、事業所それぞれが双方向で働きかけを行っており、より良い地域づくりへの活動展開が今後も楽しみである。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ある地域の定例会に出席し、『けあかふえ』の参加を呼び掛け、気軽に相談が出来る場所を提供している。また、職員が講師になり、認知症サポーター養成講座を自治会の協力のもと、公民館で行い、地域の人に来て頂いた。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、入居者、自治会長、公民館館長、民政委員、包括センター、社協、市の職員、交番の方、関係のある業者の方に、声かけし、参加して頂いている。情報交換を行い、お互いサービスの向上に活かされている。	運営推進会議には、入居者、複数の家族、自治会長、民生委員、公民館館長、那珂交番、行政職員、地域包括支援センター、他事業所施設長等、多彩なメンバーの出席を得て、2ヶ月に1回、定期開催されている。議題により、医師より専門的なアドバイスを得たり、福祉用具やマッサージ等の業者の方にも出席を得ながら意義のある開催を目指している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方と協力し、博多区グループホームネットワークを立ち上げることにより、相談や取り組みも伝えやすくなり、協力関係が築きやすくなった。	市の担当者との連携を図り、博多区内の14事業所によるグループホームネットワークづくりが実現している。定期的な会合の機会を持ち、市担当者の出席も得ながら、連携を深めている。ケースワーカーや相談員の方との情報共有にも努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、ミーティングに身体拘束廃止を課題に上げている。本人が不自由を感じないような介護を行う。また、玄関の鍵は常に開けている。	夜間帯を除き、玄関の施錠は行われていない。個別支援を重要視し共同生活であることのバランスを検討しながら、抑圧感の無い暮らしの実現に配慮している。居室環境づくりにも個別の配慮がなされ、家族との共有認識を図りながらリスク軽減を図っている。研修等にて定期的に意識を高め、現状の関わりについて振り返る機会を持っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に虐待についての内容も取り入れ、言葉や無視することで、傷つけることなど、無理強いしてはいけないことも理解し、常に優しい言葉で、接することが出来るよう、日々のケアに努め、職員同士、注意出来るよう心がけている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ミーティング時に研修資料をもとに、勉強会を行っている。職員、一人一人が、理解を深めていけるように努めている。	権利擁護に関する制度について、研修実施や運営推進会議の中での情報発信等が行われ、活用に向けて検討を行った実績もある。区内のグループホームネットワークの中でも、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を深めていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約では説明を細かく行い、質問や不安な点にも応えられるように、心がけている。契約・解約については、理解して頂いた上で、同意書等に署名をして頂く。入居後も疑問点があれば、その都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2か月に1度、定期的に行い、入居者を支える意見、要望を言いやすいように配慮している。夏まつり、クリスマス会には、GH1,2階で、家族会を行い家族の想い、悩み等聞いて、参考にしている。	事業所の行事(夏祭り・クリスマス)にあわせ、家族会を年2回開催している。参加者が多く、活発な意見交換が行われている。運営推進会議の案内状は毎回全ての家族に配布しており、家族会に参加出来ない方には事前に意見を求めることもある。また、認知症ケアや熱中症、家族の想い等をテーマに情報発信も行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、個人面談を行ない、職務においては、仕事でも、意見、提案など言えるような環境づくりを心掛けている。申し送りノートにも書いて、意見を出してもらっている。	月1回ミーティングを開催し、可能な限り多数の職員が参加できるようスケジュールを組んでいる。業務やケアの見直しを中心に活発な意見交換が行なわれる。事前に議題を提示し、意見を表出しやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休、介護休暇等の整備をし、子供を持つ方も働きやすいよう、配慮している。キャリアアップ制度を取り入れ、職員の努力に応じた、給与体系にした。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については性別、年齢、国籍、経験の有無で決めることはない。現在、1名の他国籍の方も責任をもって働いてもらっている。職場の雰囲気もオープンで積極的に仕事して頂くよう、配慮している。	法人代表及び管理者による面接が行われ、人柄や意欲を重要視し、年齢や性別、国籍等による排除は行わないようにしている。現在、10代から70代までの職員が在籍し、職員個々のスキルアップを期待して研修参加を推奨している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重するために認知症ケアや、人権学習について、ミーティング時、勉強会を開いたり、外部研修の機会があれば参加している。	グループホーム協議会や博多区グループホームネットワークでの研修参加や内部での伝達を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(年間スケジュールによる)やGH協議会、博多区GHネットワーク立上げし、研修参加、事業所負担での外部研修参加制度。資格取得のための公休、有給制度がある		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会で行われる、研修へ参加。そこで他施設の方とのネットワークを広げ、情報交換、見学等を行っている。また、博多区GHネットワークを市と共同で立ち上げ、博多区GHの連携を深めている。また、他施設の運営推進会議にも参加したり、していただいたりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を把握し、その上で本人の困っていること、不安なことを傾聴し、解決し、安心して過ごして頂けるよう、信頼関係もより深く築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とコミュニケーションをとり、要望、不安に対応し、信頼関係を築くよう努めている。また、面会時に要望がないか、声を掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族とが必要としているサービスとは何かを、ケアマネジャーも含め話し合いを行い、訪問マッサージや、傾聴ボランティア等、その時に合った、サービスを考え、ご家族とも話し合い、取り入れられるよう、努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活表を作成し、一日の役割分担(食器洗い、洗濯物干し、たたみ、掃除等)一覧表にして、仕事の取り合いでトラブルにならないように、皆で協力し合って行って頂いている。本人の気分で食事野菜を切ったり、炒めてもらったり、出来ることをお願いし、一緒に作ることも行っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションをとり、家族と共に本人を支える関係を築いている。家族には家族が出来る支援をお願いし、本人と家族の時間も大切に、離れてい家族には手紙を書いたり、電話をしたりして、本人に繋がりを感じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住み慣れた町、これまでの友人の所へスタッフ同行し、遊びに行かれることもある。県外の方は、年に一度か、家族と話し、協力して頂き、支援している。今年の秋にも予定を立てている。	生活歴や馴染みの関係性の把握に努め、家族との連携も図りながら関係継続に向けた支援を行っている。住み慣れた場所へのドライブや泊旅行等、積極的な取り組みは当事業所の大きな特徴である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームでの生活が、家庭で過ごしているような生活を目指し、入居者同士がトラブルにならないように、スタッフが仲介に入り、入居者同士の関わり合いの目的を兼ねた、体操、レクリエーションを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かあたら連絡を下さるよう、声かけを行い、入院による退去の場合でも、お見舞いに行き、様子を伺い関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の本人、家族を交えての聞き取り、必要時は医療機関と連携し、入居後日程度の監査をもとに、アセスメントを作成し、本人の希望に添えるようにしている、センター方式も活用している。	日常の言葉や仕草、表情等から、個別の思いや意向の把握に努めている。また、センター方式も活用し、定期的に更新を行っている。家族や医師との連携も活かしながら、希望に応じた外出支援に積極的に取り組んでいる。今後はセンター方式の内容充実を図り、個別ケアの根拠として位置付けていくことも期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族からの生活歴の聞き取りを行い、入居後の生活の様子を観察しながら、ミーティング時に職員同士共有し、カンファレンスを行っている。また、個別レクとして、本人の行きたい場所に、家族と医師に協力していただき実行している。(野球観戦・買物・映画での鑑賞等)		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今出来ること、出来ないことなど、生活の中で把握に、QOLの向上に努めている。その日の本人の体調にも留意し、臨機応変に対応している。また、本人の有する力が少なくなっても、出来る限り、本人中心の力で、支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際には、本人、家族、職員間の意見を参考にしている。家族の意見は、極力、取り入れ、主治医の意見も参考にしながら、介護の方向性を見出している。	本人、家族の意向を踏まえ、担当職員を中心として個別カンファを実施し、必要時には医師の意見を求めながら、介護計画を作成している。日々の実践状況を確認し、毎月のモニタリングやミーティングを通じて、現状の確認や見直しの必要性を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の流れに沿い、記録し、重要なこと、特に伝達したい事などは、連絡ノートに記載し、情報漏れのないように努めて、介護計画見直しに活かし、現状の確認と見直しの必要性について検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランに入っていない、その時々生まれるニーズに対応できるよう、今迄にしていなかったサービスも、話し合い出来る限り取り組んでいる。家族(小規模利用)からの要望に対応し、帰宅支援を行った(職員付き添い)。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校、公民館と隣接しているため、行事やお茶会に参加するようにしている。施設内の行事の時、ボランティアとのふれあいを通し、楽しんで頂く。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の本人、家族との話し合いで、これまでの受診状況、既往等を考慮し、かかりつけ医の紹介を行い、事業所としては、かかりつけ医との医療的情報共有、日常生活の様子等、連絡を密に行う。	入居時にかかりつけ医について意向を確認している。ユニットごとに協力医との密な連携を図りながら、月2回の訪問診療が実施されている。訪問看護記録が整備され、日常の健康管理や早期対応につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の時に日常の体調などについて報告し、アドバイスを受けるようにしている。変化があれば、24時間訪問看護に連携を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時においては、主治医を中心に病院ソーシャルワーカーと常に連絡を取り合い、本人に一番良い方法が取れるよう支援しており、地域病院との連携も取れつつある。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年3月、初めて該当者が出たが、家族の早い段階での意思表示があったため、主治医との連携等で、終末を迎えることができた。今後、この事例を参考に、職員皆が認識を深め、地域での支援へ広げることが肝要である。	急変時の対応についての事前意思確認書等を用い、契約時より重度化した場合や終末期のあり方について方針の共有に努めている。今年は看取りも経験し、職員も「家族の一員として送ることができた」ことを大切に受けとめている。今後も状況の変化に伴い、家族や職員の意向を共有しながら話し合いを重ね、チームケアの充実に取り組む意向である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えては、マニュアルの作成、勉強会を行うことで、すべての職員が学んだことを実践できるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練、マニュアルの策定、研修での学習を通じて、職員が避難に対する意識づけと、実践が行えるようにしている。毎日、施設内での人数確認を行なっている。(もしもの時にすぐ人数を言えるようにしている。)	年2回、併設事業所とともに、時間帯(昼夜)や出火場所・原因等を変更し、避難訓練を実施している。地震や水害を想定した災害マニュアルも整備され、今年度は漏電を想定した訓練も実施されている。緊急連絡網には、自治会長や公民館長の協力を得ている。	様々なリスクを想定した訓練内容が確認できます。今後は地域との交流や連携を災害対策にも発揮し、相互の役割や協力体制作りについても検討を行う等、更なる働きかけが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけは、上から目線の言葉ではなく、一人一人に応じた声かけで対応している。接し方に問題があった時には、その場で職員同士声かけし、注意をするよう促している。	個人のペースやこだわり、距離感等を大切にしながら、自尊心の回復やプライバシーの確保に配慮している。馴染みの関係性が馴れ合いとならないよう職員教育を行うとともに、振り返る機会を持つようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「こうして下さい」ではなく、「どうしましょう」と問いかけたり、決定や希望を考えることが難しい時には簡単な言葉かけを行い、自分の思いや希望を表せるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりと言っていいほど、一日の生活の仕方には違いがあり、また、自分に合った過ごし方をすることで生活意欲の向上にもつながるとおもうられるため、食事、受診等以外は、自由に過ごしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落には、あまり興味を示さないことが多いため、季節行事や誕生日の時など、一緒に衣類を選んで着替えたり、化粧をしたりして、楽しむように心掛け、常に身だしなみに気を付けるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のやりたい手伝い、本人のあった手伝いを見つけ、介護者はわき役に徹することで、その方の自主性を損なわず、楽しく作業する環境づくりを心掛けている。	食材の購入や献立等はユニットごとに対応しており、嗜好や状態等に細やかな対応が可能である。買物同行や菜園の野菜の活用も含め、個別の役割を意識しながら食事を提供している。調理担当職員が配置され、彩りや盛り付け等にも細やかな配慮が確認できる。時には外食に出掛け普段とは違う雰囲気を楽しんだり、行事食は家族にも好評を得ている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には、同じメニューだが、本人の体調、嗜好、時間に合わせた食事提供を行っている。また、特殊な食事提供については、医療と連携を図りながら進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残差物が無いか、一人一人に合った口腔ケアの確認を行なっている。就寝前には、義歯は洗浄剤につけている。また、希望される方(家族または本人)は、週に1度、訪問歯科により、口腔ケアをして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄チェック表を確認し、声掛けを行っている。本人が出来ること(立ち上がり、ズボン、下着上げ等)はして頂いている。	排泄チェック表により個別の状況やパターンの把握に努め、トイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている。医師や理学療法士との連携も図りながら、排泄動作の確認や排便コントロールへのアプローチを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品を提供したり、食物繊維の多い食事などの工夫を行い、自然に排泄出来るよう、心がけている。または、必要に応じて医師の指示のもと、内服をして調整している。出来る限り、便座に座って頂くことも心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の気分や体調(バイタル等)に合わせ、気持ちを尊重し、楽しく入浴して頂いている。毎日入浴される方もおられる。	毎日入浴準備を行い、希望や体調等にあわせて、少なくとも週に2回は入浴できるよう支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。重度化へと移行する中ではあるが、必要に応じて職員2名を配置し、湯船につかれるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けを行い、本人の状態に応じ、休息を頂くようにしている。気持ち良く安眠出来るよう、居室の温度調整にも注意をし、支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的、用法、用量について、主治医より説明していただき、把握している。症状の変化の確認を行ない、申し送りを行い、職員全員が把握している。また服薬説明書は、いつでも閲覧出来るようにしている。服薬時は職員2名以上で名前・服薬確認を行ない誤薬を防いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を活かせるよう、生活表(食器洗い、洗濯干し・たたみ、掃除等)を作成し、行って頂いている。本人のしたいこと(家庭菜園、買物、外食、カラオケ等)も楽しんで頂けるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に沿って、外出を心掛けている。また、食事に出掛けたり、地域の人とのふれあい(なかよし喫茶)に出掛ける支援を行っている。日常生活を前向きに過ごして頂けるよう、希望を把握し、支援できるようにしている。	花見や散歩に出かける全体行事や、地域の方との触れ合いを求めて出かける機会もある。他に個別の外出支援を大切に、ラーメン屋やカラオケ、野球観戦、博多山笠見物や親戚宅の訪問、思い出の由布院への旅等、家族の協力も得ながら出来るだけ本人の希望に添って、行きたい所へ外出できるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は、お財布を持って行き、本人の好きな物、必要な物を購入して頂き、支払いも、本人が出来る限り行っている。(職員は、見守り、付き添い。)施設内では、個人の金銭は管理させて頂き、おこずかい帳を作り、管理し家族へのしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人の方に電話をされ、楽しく会話をしている。本人の希望に沿うよう、支援している。また、家族より毎日電話がある方もおられ、本人の安心に繋がっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある空間で、くつろいで頂けるように、温度調整に気を付け、居心地良く過ごして頂ける様にしている。月ごとの目標を決め、実行出来るように支援している。切り絵を貼り、季節感を出す工夫をしている。また、清潔さにも、心がけている。	1階のウッドデッキでは、日光浴をしたり、皆でお茶を楽しんだりと有効利用されている。すぐ横の菜園では、ナスやきゅうり、トマトなどの野菜が出来、利用者も一緒に草とりや水やりなどを行っている。季節感あふれる折り紙や切り絵・行事の写真等は目線の高さに配慮しながら掲示され、生活を振り返って楽しむことが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろがれたり、テーブルで勉強や、会話を楽しくされたりと、思い思いに自由に過ごして頂いている。窓の近くで、外を見て、隣の職員へ手を振ったり、日光浴しながら、うとうとされたり、本人の希望に沿って過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、ダンス、好きな洋服等、本人の使い慣れた物を置き、居心地良く過ごして頂くよう工夫している。	和室と洋室が用意され、使い慣れた筆筒や以前使用していたミシン、手作り作品等が持ち込まれている。家族の写真や趣味活動の作品が飾られていたり、シンプルに整理整頓された部屋等、個人の思いにまかせられた空間となっている。配置も工夫され、動線の確保に配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間とトイレ、浴室には手すりがあり、自立歩行の方は、見守りをし、安全かつ自立した生活が出来るように工夫している。トイレの扉には、大きな文字で分かるよう、表示をしている。居室の扉にも本人の希望と、家族の了解を得て、表札を付けている。		